

# 平成30年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立第二中学校)

平成31年2月15日

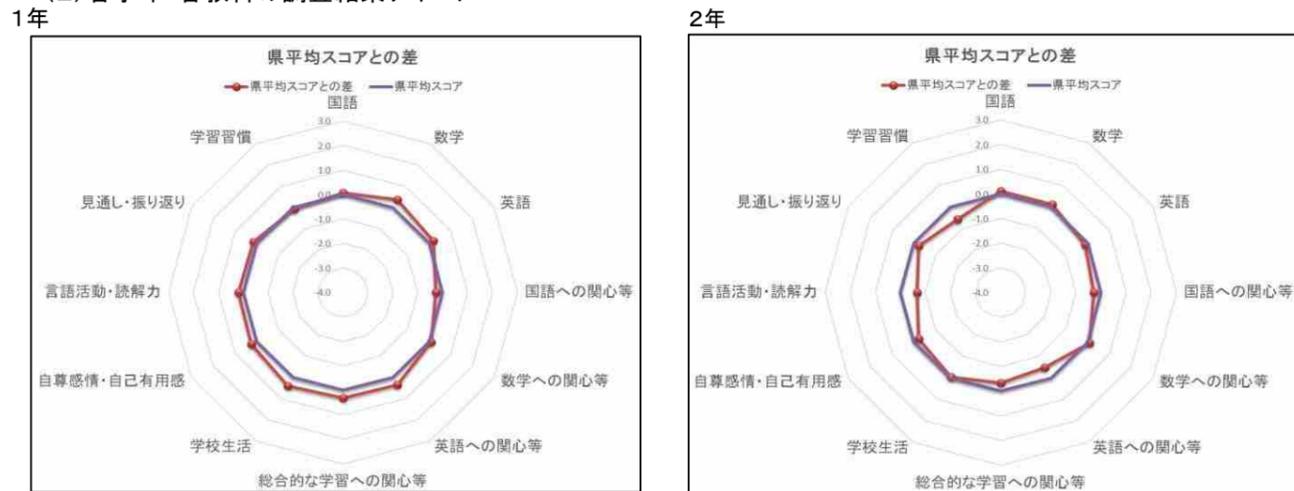
## (1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
1年	国語	○平均正答率は県をやや上回る。 ○単語の識別、話す・聞く力をみる問題では大きく県を上回る。 ●漢字の書き問題では正答率が県平均を下回っており、無回答が県よりかなり多い。 ●79パーセントの生徒が「国語の授業はよくわかる」としているものの国語への関心は県平均スコアとの差が-0.3である。	・楽しく主体的な授業を目指す。そのために ①授業の流れ、学習課題、つけたい力をより明確に提示する。 ②主体的に取り組める言語活動を増やす。 ・反復学習の定着をすすめ、言語事項の定着を図る。
	数学	○正答率は、全問題の正答率を上回った。○計算力があり、方程式を処理する力にも活かされている。○関数をグラフに示したり式に表す技能も高まっている。○関心・意欲は、県並だが、自分で問題を解いたり考えることに、粘り強く取り組むことができる生徒が多い。 ●分数やや複雑な計算問題では、正答率が低い。●文章題を理解し、解くこと、また表現することを苦手とする生徒が多い。●図形問題は、小学校での苦手がそのまま数値の低さに表れている。	＜授業＞・基礎、復習プリントの活用・ICTの効果的な活用 ・数学的活動の取り入れ(操作活動、話し合い活動)・深める発言、反応を取り上げ活かす指導(つぶやき、気づき、話し合いの結果)・暗算力のアップ(音声トレーニング) ＜家庭学習＞・毎日の自主学習に取り組む・(復習)基礎力プリントでの強化・宿題や課題にきちんと取り組む・提出物の評価と補習指導
	英語	○平均正答率や英語への関心等は県平均を上回る。 ○長文の読み取りの問題では大きく県を上回る。 ●指示内容を満たす英作文は県平均を下回っており、自分のことについて、まとまった内容で英文を書くことが今後の課題である。 ●82パーセントの生徒が「英語の授業の内容はよく分かる」としているが、今後学習が進むにつれて理解が困難になっていくことが予想される。	・重要語句や基本文を定着させるため、英語が苦手な生徒でも取り組める反復練習を取り入れる。 ・自分の気持ちや考えを英語で伝え合う活動を設定し、自己表現の力を高める。
2年	国語	○平均正答率は県をやや上回る。 ○話す・聞く力を問われる問題では大きく県を上回る。 ●記述式の問題では、県平均を下回っている。 ●文法の知識を問われる問題の正答率が低い。	・書く力を身に着けるために、テーマを決めて短作文を書く学習を授業に取り入れる。 ・文法の知識を定着させるため、既習の文法問題を定期的に行う。
	数学	○式の計算、一次関数の式化、図形分野でパターン化された問題は県の平均を上回っている。 ●連立方程式や関数の利用の正答率が低く、無回答も多い。 ●数学の学習したことを普段の生活に活用したり、自分の考えを説明したりすることに難しさを感じている生徒が多い。	・苦手分野の基本問題は、授業や家庭学習で繰り返し練習する機会を設定し、内容の定着を高める。 ・自分の考えを論理的に説明したり、ワークシートに記述したりする問題を増やす。 ・数学の学習が普段の生活に結びつく授業展開や課題設定を工夫する。
	英語	○聞く設問に関しては、県平均と同等である。 ●対話の流れをふまえた英作文では県平均を下回っており、対話の内容を理解するとともに、適切な英文を書くことが今後の課題である。 ●語彙の知識・理解が不十分なため、誤答が多い。	・重要語句を定着させるための反復練習を継続して行う。 ・まとまった英文を読む機会をもつとともに、自分の気持ちや意見を述べたりする書く活動を、授業の中で取り入れる。

## (3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
1年	授業改善に関わる事項	○全体的に県平均を上回る項目が多く、授業に意欲的に参加している生徒が多い。 ○グループでの話し合いや調べ学習の活動がなされており、自分の考えを発表する機会が多い。 ●授業に意欲的に取り組める生徒とそうでない生徒との差が広がっている。	・生徒にとって身近な教材を選び、興味関心をもって授業に取り組めるよう工夫する。 ・だれもが意欲的に取り組めるように、グループ学習の場を増やす。
	家庭学習に関わる事項	○宿題などの家庭学習をしている生徒が多い。 ●家庭学習の時間や内容については、個人差が大きい。 ●授業の予習・復習をしている生徒が県平均を下回っている。	・取組方に個人差が大きいので、自学についての良い例を紹介するなどして、取組の方法を教える。 ・家庭学習の習慣を身につけられるように、家庭と連携していく。
2年	授業改善に関わる事項	○授業では、自分の考えを発表する機会が設けられている。 ●話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると思う生徒が、県平均を下回っている。	・ペア学習やグループ学習の発問の仕方を工夫し、自分の考えを発表するとともに深める活動を取り入れる。
	家庭学習に関わる事項	○家庭学習の課題として与えられているものについては、概ね取り組んでいる。 ●家庭で学校の授業の復習をしている生徒は38%にとどまっている。 ●平日携帯電話を1時間以上使用している生徒が60%であり、家庭学習時間の確保が難しい。	・復習の仕方を具体的に示したり、良い取組の例を紹介したりする。 ・保護者・生徒を対象としてメディアに関わる啓発を継続して行う。

## (2) 各学年・各教科の調査結果チャート



(参考) 平均正答率

		国語	数学	英語
1年生	本校	69	46	67
	松江市	68	41	65
	島根県	67	38	64

(参考) 平均正答率

		国語	数学	英語
2年生	本校	67	43	55
	松江市	67	43	58
	島根県	65	40	57

受検者数  
1年生 189人

受検者数  
2年生 194人

各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。

## (4) 生活・学習に関する意識調査の結果

